

田んぼダム・ため池フォーラム開催！！

田んぼダム通信



佐藤前農林水産部長による挨拶

秋田県は、令和五年三月二十日に、田んぼダムの取組とため池の防災・減災対策をテーマとした「田んぼダム・ため池フォーラム」を大仙市（大綱交流館）で開催しました。

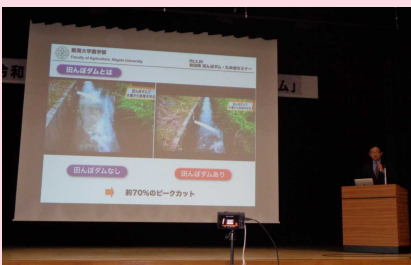
同フォーラムでは、新潟大学吉川教授の基調講演の後、県や秋田県仙北平野土地改良区の取組状況の説明や大仙市長・美郷町長・土地改良区理事長等によるパネルディスカッションが行われ、県内外の約270名の参加者（WEB参加含む）から、活発な質疑応答がなされました。

基調講演

田んぼダムの第一人者である新潟大学農学部吉川夏樹先生を迎え、基調講演をしていただきました。

この中で、吉川先生は、田んぼダムの効果について、実際の豪雨災害時のデータからシミュレーションを行った事例を挙げ、田んぼダムの取組を行うことでピーク流量を9%カットすることが可能であると述べました。

また、実際の豪雨災害の現場では、約64haの湛水被害が生じたが、「田んぼダムの取組を流域全てで実施した場合、（シミュレーション上は）24haまで床上浸水の被害が抑えられ、約60%の被害軽減が可能」など田んぼダムの取組効果に係る具体的な説明がありました。



吉川夏樹先生による講演の様子



田んぼダムに適した田面排水樹の展示



パネルディスカッションの様子

県では、今後とも様々な機会を通じて、「田んぼダム」や「ため池」など、防災・減災への理解を深める取組を行ってまいります。

【吉川 新潟大学教授】
田んぼダムの取組は、県・市町村・土地改良区等が、それぞれの役割分担をすることが大切。中でも土地改良区の位置付けが非常に重要。

【伊藤 秋田県仙北平野土地改良区理事長】
組合員（農家）への普及活動を続けていくことで、今後とも田んぼダムを推進していくと共に、この取組を「農村地域の文化」にしたい。

【松田 美郷町長】
田んぼダムの取組は、下流のみが恩恵を受ける訳では無い。自分達の地域において越水する流出量を小さくすることは非常に意味がある。

【老松 大仙市長】
大仙市では、防災及び農林部局が連携し、田んぼダムの取組面積の拡大を行っている。引き続き、関係機関と連携し、面積拡大を図りたい。

パネルディスカッション
パネルディスカッションでは、防災・減災対策や課題等について、それぞれの立場から意見が出されました（主なコメントを記載します）。

【松田 美郷町長】
田んぼダムの取組は、下流のみが恩恵を受ける訳では無い。自分達の地域において越水する流出量を小さくすることは非常に意味がある。

【伊藤 秋田県仙北平野土地改良区理事長】
組合員（農家）への普及活動を続けていくことで、今後とも田んぼダムを推進していくと共に、この取組を「農村地域の文化」にしたい。

発行者
秋田県農林水産部
農地整備課
水利整備・防災チーム
TEL：018-860-1830
農地整備チーム
TEL：018-860-1824
農山村振興課
地域環境保全チーム
TEL：018-860-1853